

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

事業コード	28	事業名	女性部中期活動ビジョン実施事業			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会		
担当部名	企業振興部	担当課名	経営支援課	担当課長名	佐々木隆太	施策コード	14	施策名	青年部・女性部中期活動ビジョンの策定		

【事業内容】

<b>1. 事業実施当初の背景</b>									
商工会女性部は、地域づくりの原動力として重要な役割を果たしているが、部員数の減少等により組織活動は厳しい状況に置かれている。									
<b>2. 事業のねらい</b>									
将来を見据えた女性部活動について、主体的・自律的な活動を展開していくための中期活動ビジョンを作成する。									
<b>3. これまでの評価結果</b>									
		過年度	H29	-	H30	B	R1		R2
中期活動ビジョンに基づき「おもてなし交流プラン」の策定に着手し、県外女性部との交流と地域PRにつながっている。									
<b>4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応</b>									
全ての女性部において「おもてなし交流プラン」を策定し、地域の活力向上と利用者へのお土産品としての地域特産品開発へつなげる。									

【取組評価】

取組コード	取組	実績	必要性	有効性	効率性	総合評価
67	女性部中期活動ビジョンの策定・実施	平成29年度に策定し、平成30年度より「おもてなし交流プラン」の策定に着手するなど積極的に実施している。	a	a	a	A
68	地域特産品の企画・開発	地域をPRする観光商品としての「おもてなし交流プラン」を策定し、地域の活力向上へつなげている。	a	a	a	A

<b>評価指標と実績</b> 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)																	
取組コード	68					取組コード						取組コード					
指標名	成果品数					指標名						指標名					
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	5品	10品	15品	21品	21品	目標						目標					
実績	0品	2品	16品			実績						実績					
達成率	0%	20%	107%			達成率						達成率					
達成度	c	c	a			達成度						達成度					

【事業評価】

<b>1. 3つの観点からの評価</b>										
【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性					【取組評価】の必要性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)					<b>a</b>
〈評価の理由〉 女性部が自主的・自律的な活動を展開していくために策定した中期活動ビジョンに基づく取組は、女性部のみならず、地域の活力創出や商工会の基盤強化につながることから必要性は高い。										
【有効性の観点】 事業目標の達成状況					【取組評価】の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)					<b>a</b>
〈事業の目標は達成されているかどうか〉 中期活動ビジョンに基づき、「おもてなし交流プラン」の策定や部員増強運動に自主的に取り組み、成果につながっている。										
【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況					【取組評価】の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)					<b>a</b>
〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉 全ての女性部が、中期活動ビジョンに基づき統一したアプローチで事業を実施できていることから、時間的コストの縮減につながっている。										
<b>2. 総合評価・理由</b> A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合										<b>A</b>
中期活動ビジョンに基づき、「おもてなし交流プラン」の策定や部員増強運動に自主的に取り組み、部員の意識向上が図られているとともに、目標達成にも至っている。										
<b>3. 課題</b>										
「おもてなし交流プラン」の全女性部策定と、地域の活力向上に向けた活用策、地域内外に向けたプロモーションなどについて検討する必要がある。										
<b>4. 今後の対応方針(改善点)</b>										
「おもてなし交流プラン」を県内外から誘客できる観光商品へとステップアップさせ、地域の賑わい創出につなげる。										